

特別支援（知的）学級 自立活動学習指導案

日 時 令和元年 10月4日（金）公開授業 I

児 童 のびのび3組（知的障がい）

（1年生男1・女1 2年生男1 3年生女2 計5名）

指導者 T1川村 明美 T2滝沢 雪江

1 単元名 めざせ！ことばの達人

2 単元について

(1)児童について

本学級には、知的障がいの児童5名が在籍している。知的障がいとして抱える課題は様々であるが、共通の課題として、対人関係・コミュニケーションが挙げられる。自分の気持ちや要求を素直に相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解出来なかったりするため、学級内はもちろんのこと、交流学級の担任や友達等、人間関係の交わりや深まりが少ない様子が見られる。

また、5名のうち2名は、構音障がい疑われ、他の1名は、幼児語のような発音がある。さらに1名は、耳と鼻咽腔に関わる障がい疑われるため、発音が不明瞭でコミュニケーションで支障をきたすことが多い。

以上のような実態から、ことばの学習としての機能訓練とコミュニケーションに関する指導をすることが必要不可欠と考える。

(2)単元について

本単元は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章の第2の3「人間関係の形成」の「(3)自己の理解と行動の調整に関すること」・第2の6「コミュニケーション」の「(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること」・「(2)言語の受容と表出に関すること」・「(3)言語の形成と活用に関すること」にかかわる単元である。

本単元については、1学期にも「めざせ！ことばの達人」として、機能訓練・言語訓練に取り組んできた。2学期は、さらに対人関係・コミュニケーションを含めた指導に発展させ、より実践的な場面を想定した活動へと進めていく。

本単元では、人間関係を良好にするための言葉の素材を「すてきな言葉」として集め、それを身近な他者に贈るという活動を設定する。この相手意識をもって直接働きかけるという活動を通して、本学級児童のコミュニケーションスキルの向上につながると考えた。

「すてきな言葉」とは、楽しい言葉、すきな言葉、美しい言葉等と捉え、語彙を増やしたり、意味づけをしたりする学習にもつなげていきたい。

また、言葉を贈る相手を考えることで、人との関わりを意識し、相手に伝えたいという思いを膨らませることにより、コミュニケーションに対する意欲を高め、生活の中で積極的に人と関わろうとするきっかけにできるのではないかと考える。

(3)指導にあたって

第1・2時では、「すてきな言葉」とはどんな言葉かイメージを共有化する話し合いをし、言葉集めをする。集めた言葉を分類整理して、意味や使う場面についても話題にする。

第3時では、「ことばのプレゼント」の計画を立てる。「誰に」「どんな形にして」「どんな方法で」贈るのかの見通しをもたせる。

第4時から第6時では、贈る相手のことを考えて言葉を選び、相手意識をもって選んだ言葉を丁寧にカードに書かせる。対象は、身近な家族や教師、交流学級等の友達とする。身近な存在といっても、対象によって自分との関係性が異なっていることに気をつけて言葉を選んだり、話し方を練習したりする活動を進める。また、ふり返りで活用するために、贈った相手から簡単な返事をもたらるようにする。

第7時では、単元全体をふり返る活動を設定する。カードを贈った時の様子や、お返事カードを基にふり返り、思いが伝わる喜びや進んで人と関わる楽しさを実感させたい。そして、「ことばの達人」になれたかどうかをふり返る。

3 単元の目標

- 身近な人に言葉のプレゼントをする活動を通して、自分の思いを言葉で伝えるよさが分かり、進んで人と関わるができる。【知識・技能】
- 機能訓練に取り組むことで、構音運動を調整する力を高めようとしたり、正しい発音をしようとしたりすることができる。【知識・技能】
- 言葉を贈る相手のことを考えて言葉を選ぶことができる。【思考・判断・表現】
- 友達と助け合い・支え合いながら、活動することを楽しんでいる。【学びに向かう力】

4 指導計画（7時間）

- 第1・2時 ことばの達人レベルアップをめざして！ すてきなことばさがしをしよう
- 第3時 ことばのプレゼントをする計画を立てよう
- 第4時 ことばのプレゼントをつくろう① 家族へ
- 第5時 ことばのプレゼントをつくろう② 先生へ
- 第6時 ことばのプレゼントをつくろう③ 友達へ（本時）
- 第7時 活動をふりかえろう

5 本時の指導

(1)ねらい

- 友達に贈る言葉を考えてカードを作り、思いを伝える練習をすることができる。
【知識・技能】
- ことばに関する自己課題を意識し、よりよい話し方をしようとしている。
【知識・技能】

(2)個別の目標

児童	児童の実態	本時の個別目標
1年男 K	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な発音はあるが、臆することなく発語している。 ・外耳道閉鎖症により、左耳の聴力は平均的数値の半分以下。 ・鼻咽腔に関わる機能障がい疑い。 ・発音が不明瞭のため、意志疎通に支障をきたすことがある。 ・不明瞭な発音のため、表記の間違ひがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントする言葉を選んで丁寧に書き、教わりながら、ゆっくりはっきり伝える時の話し方を練習することができる。 ・口形練習や舌の使い方の訓練に、丁寧に取り組むことができる。
1年女 S	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児語のような発音がある。 ・できないことがあると、癇癪を起こすことがある。 ・飽きやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時は自分から応援を求め、友達と一緒に伝える時の話し方を練習することができる。 ・飽きずに機能訓練や発音練習に取り組むことができる。
2年男 S	<ul style="list-style-type: none"> ・濁音、拗音の発音が不明瞭になることがある。 ・改まった場面では、話し方等に自信をもつことができず、場にそぐわない態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントを渡す時の話し方を教わり、真似ながら終わりまではっきり話す練習をすることができる。 ・聞き分け訓練を通して、正しい発音に対

	<p>になり，終わりまで話すことができないことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み書きは，40文字程度。 	<p>する意識を高めることができる。</p>
3年女O	<ul style="list-style-type: none"> 日常会話は2語文程度。 語彙が少なく，自分の思いや気持ちを的確に言葉にしたり，相手の質問に的確に答えられないことがある。 助詞の使い方に課題があり，話している意味が通じないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを相手に伝えるために，2文程度の話し方を考え，練習をすることができる。 終わりまで，はっきり話すことができる。
3年女H	<ul style="list-style-type: none"> 親しい人とは積極的に関わりたい気持ちがあり発語は多いが，場面にふさわしくない自分本位の言動をすることがある。 ダ行がラ行に置き換わることが多い。 改まった場面では，話し方等に自信をもつことができず，言葉が出なくなることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼントを渡す時の話し方を教わり，終わりまではっきり話す練習をすることができる。 唇や舌の動きの訓練に，粘り強く丁寧に取り組むことができる。

(3) 研究に関わって

【内容① 単元構想の工夫】

発達課題として発音やコミュニケーションに関する課題を抱える児童が複数在籍していることから，ことばに関する単元が必要と考える。また，ただ単に機能訓練を行うのではなく，主体的に学習に向かえるようにするために，児童が喜んで取り組みそうな，他者にプレゼントを贈るという設定にすることで，コミュニケーションの基礎的能力を高められるようにする。

【内容② 指導方法の工夫】

機能訓練や伝える練習の様子を動画に撮り，ふり返り場面で自分の姿を客観的に見ることができるようにタブレットを活用する。

【内容③ 資料活用の工夫】

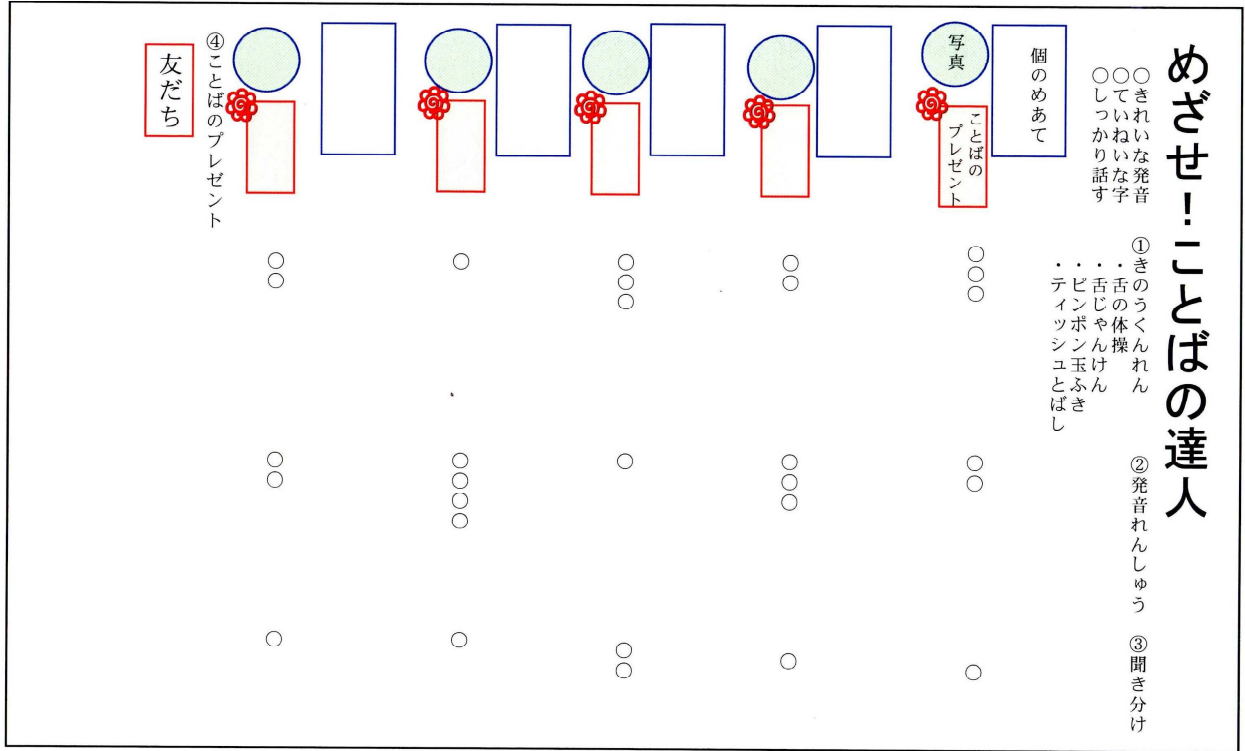
学習の様子を写真等で記録に残し，それを基に本時の活動の見通しをもたせたり，活動の手がかりとさせたりする。

(4)展開

段階	学習活動 と 予想される児童の反応	○教師の支援 ・留意事項	
		男児 K 男児 S 女児 S 女児 H	女児 O
導入 3分	1 挨拶をする。 2 学習の見通しをもち、めあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">めざせ！ことばの達人</div> ○発音がきれいな人 ○ていねいな字を書く人 ○終わりまでしっかり話す人	○口形に気をつけて、ゆっくり発語するよう声をかける。 ○「ことばの達人」としての要素を確かめ、本時の個々のめあてをもたせる。(T2と一緒に掲示させる。) ○学習計画や前時までの活動の写真を見て振り返り、本時の流れを見通すようにする。【内容③】	
展開 37分	3 機能訓練をする。 (1)舌の体操 (2)舌じゃんけん (3)ピンポン玉吹き (4)ティッシュ飛ばし	・活動の様子を随時タブレットで記録する。(写真や動画 T1 T2) ・集中して取り組めるように、テンポ良く進めるが、訓練の意識を持続しているかよく観察する。 ○音楽に合わせて舌の体操をさせる。	
		○舌の形や脱力を意識させるために、鏡で確かめさせる。 ・個の課題に対応するように、舌じゃんけんをさせる。	○お手本やアドバイスを する役割を与え、話す 場面を作る。
		○ピンポン玉吹き・ティッシュ飛ばしの結果を、これまでの自分のベスト記録と比較できるように教具の工夫をする。 ○取り組み状況が後でわかるように、黒板に印で表す。	
	4 発声・母音練習をする。 (1)アオアオ体操 (2)ウイウイ体操 (3)発音練習	○メトロノームを使って意識を集中させ、リズムよく練習させる。 ○口形だけでもある程度言葉が伝わる体験をさせ、口形の大切さを捉えさせる。 ○一斉の練習と共に、個別でも発音させて音を聞き合うことにより、正確な発音への意識をもたせる。 ○よい発声や口形について、即時評価したことを黒板に印で残す。	
	5 聞き分け訓練をする。	・苦手な発音に対する音感を高める弁別を行う。 ○単語カードを提示し、ひらがなと音を対応できるようにする。	○聞き分け訓練の手伝いをさせる。
	6 ことばのプレゼントをつくる。 (1)贈る言葉を選ぶ。 ○好きな言葉を選びたいな。 ○優しい言葉を選びたいな。 ○どんな言葉にしようかな。	○対象は、交流学級の友達であることを確かめ、相手意識をもたせるために板書に示す。(写真) ○贈る相手が喜んでくれるか、自分が書きやすいかどうか等、選ぶ観点を教える。 ○選べないときは、指導者と相談しながら選ばせる。 ○宛名を丁寧に描かせることで相手意識をもたせる。 ○書けない文字は、なぞり書きができるように支援する。	

	<p>(2) 選んだ言葉をカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ありがとう ○にこにこ ○大すき ○なかよし <p>(3) 選んだ言葉について交流する。</p> <p>① 声に出して読む。</p> <p>② 選んだ訳を話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな言葉をプレゼントしたいからです。 ○□□さんが、喜びそうだからです。 ○わたしの好きな言葉だからです。 <p>③ ラッピングする。</p> <p>(4) 渡すときに添える言葉を考え、練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口形を意識させる。 ○声に出して読ませ、音の響き等、印象を交流させる。 ○選んだ訳や言葉の良さを話し合うことで思いを膨らませ、渡すときの言葉にすれば良いことをアドバイスする。 <ul style="list-style-type: none"> ・返事をもらうためのカードを用意する。 ○「ことばの達人」の観点に合っているか、ロールプレイをやって見せる。 ○練習する様子を写真や動画に撮り、ふり返り場面で活用できるようにする。 ○渡すときに添える言葉がわからない時は、教え合いを促したり、相談させたりする。 ○前時の様子の掲示を参考にさせる。 ・相手を変えて練習させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】 友達に贈る言葉を考えてカードを作り、思いを伝える練習をすることができたか。 ことばに関する自己課題を意識し、よりよい話し方をしようとしていたか。</p> </div>
<p>終末 5分</p>	<p>7 振り返りをする。</p> <p>(1) 個々のめあてについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○丁寧に書けました。 ○終わりまでしっかり話せました。 ○よい発音で話すことができました。 <p>(2) 学習感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○～に応援してもらって練習できました。 ○早くプレゼントしたいです。 <p>(3) 次時の活動内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動での個々の変容について気付かせ、みんなで認め合う雰囲気を作る。 ・個々のめあてをふり返ると共に、全体として「ことばの達人」に近づいていることを視覚的に確かめて達成感をもたせ、次への意欲付けをする。 <p>○良さにふれる相互評価を伝え合うようにさせる。</p> <p>○タブレットに記録した写真・動画を元に、頑張っている様子を共有できるようにする。【内容②】</p>

(5) 板書計画



(6) 場の設定

